

生き方に迷いながら会社を継ぐ道へ

岡野さんが岡野組に入社したのは26歳。それまでは親の敷いたレールに反発する思いもあつたという。「会社は継がない」と抵抗していましたね。私も今は親ですから、子どもに言わされたらショックですよ」と岡野さんは振り返る。「会社に入るまでは父の知り合いの市議の先生のもとで書生をしていました」という岡野さん。書生時代は来客対応で社会人の基本が磨かれたという。「企業の重役や、婦人たちが来られるのですが年齢や社会的立場が違うので会話にならない笑」。あかんあな...と最初は思いましたね。話し方や聞き方を研究し、2年もした頃には楽しくなってきたかな」と振り返る。その経験は今の営業スタイルにも通ずる。「お前は俺と違つて、でも行くな」が、父親にほめられた時の言葉(笑)。書生を経てその後を迷っていた岡野さんに「帰つてこえ、家業に就きました。

子どもに伝えたいこと 人としての基本を大切に

結婚をしたのは会社に戻つて3年後。友人の未生流 笹岡家元の 笹岡隆甫氏が「華道を習わないか」と勧めてくれ

若い人材を次の岡野組の原動力にしていきたい

岡野さんは建設協会や青年会議所、納税協会の活動にも力を入れているご

50年、100年と歴史に残る仕事を��がけたいですね

岡野さんの LIFE HISTORY & ONE DAY 生き方ヒストリー アンド ある1日

8歳 母が働き始め力不足に
14歳 家業は継がないと反発
20歳 大学に通いながら書生をする
26歳 岡野組に入社
29歳 結婚
30歳 長男出産
34歳 長女出産
41歳 専務取締役に就任
50歳 社員が成長し地域で一番愛される会社に!
70歳 次の世代に継承し新生岡野組が誕生している

1日の予定を確認
朝礼
起床
業界新聞を熟読
報告・相談、決裁処理
昼食
帰社
19:00
22:00
23:00
00:00
就寝
入浴
メールチェック
家族と食事
妻と会話、読書

「あの頃の自分」
「これから自分の自分」

「仕事を常に外へ出ている時間が多いんですね」

「私の地元の企業は、そういうことを發信するのが苦手笑」。でも、仕事のやりがいやリーダーシップを發揮する場なら大手にも負けないよと、若い人たちに知ってほしいですね」と岡野さんは話す。

今、この先もよりよい会社をつくっていきたい。

今 の 自 分

よい人づくりから、つくりつていきたい。



Vol.04

専務取締役

岡野 真之さん

Okano Masayuki

1974年京都府京都市生まれ。1995年より大学に通う傍ら、当時京都市会議員をしていた政治家の事務所で書生として活動。2001年に株式会社岡野組に入社。2016年より専務取締役に就任。これまでに京都青年会議所理事長、京都府少年捕導協会理事などを務める。妻と小学生の2人の子ども、両親の3世代で暮らす。

自己なりの流儀

創業151年になる総合建設会社「岡野組」は、明治時代の琵琶湖疏水開設工事を始め、京都コンサートホールの新築工事、平安神宮の大鳥居の保存修理工事など、京都の街づくりを支えてきた企業だ。「父が5代目社長で、私が今年から専務取締役を務めています」という岡野真之さんが率いるのは「技術部門が中心の会社」という社内において、少数精銳で活躍に動く営業部門だ。「会社において指示だけをする立場じゃありません。常に外へ出ていきます」。お付き合いのあるお客様の挨拶回りはもちろん、「新しく出会った人に、飛び込みのような営業もしますよ」と岡野さんはい。岡野さんは協会や団体の活動でも活躍。「会社で隣になつた人が明日のお客さんかも知れない。名刺でも創業151年と書いてあるので、ハリとお声をかけて頂くこともある。この環境を今は恵まれているな」といいます」と岡野さんは話す。

